

視察研修報告書

部 会 名	まちづくり・土地利用チーム	
日 時	平成22年2月18日(木)午後2時～5時	
研 修 先	宮崎県「都城市総合文化ホール」	
研 修 者	近藤委員・石川委員・徳永委員	
応 対 者	都城市市民生活部生活文化課主幹 高田美佳	
	同 主事 上原真也	
市の概要		
人 口	168,503人(高齢化顕著)	
周 辺 市 の 状 況	宮崎県内は宮崎市、日南市、串間市に、鹿児島県内は曾於市、霧島市、志布志市に接する。	
施 設 の 位 置	JR都城駅前徒歩100歩、神社、公園に隣接(跡地利用の再開発ではない。)	
そ の 他	宮崎市から50 ^分 (1時間)、鹿児島市から90 ^分 (1.5時間)と交通不便。 さしたる基幹産業なし(焼酎酒造、農業)	
ハード		
施 設 規 模	大ホール	(音楽主目的2階)固定1455席、車椅子6席、オケピット、親子室(1F 989席、2F 472席) 木質多用
	中ホール	(演劇主目的2階)固定674席、車椅子6席、親子室(1F 447席、2F 235席) 木質多用
	楽屋	12室(大ホール6 中ホール6)
	会議室	2室
	展示場	1室
	和室	1室
	その他	敷地面積15590㎡、建築延面積16688㎡ リハーサル室1、工房1、楽器庫、客席バルコニー席あり…不要との事 駐車場(来客用336台分、関係者用77台分)…大幅に不足との事 中ホールの通路配置に工夫あり(一直線でない)。 極力通路のステップ段差は低くし、床材も木質。
設 備 内 容	エレベーター	乗員用、貨物用
	飲食	レストラン等なし(自動販売機のみ)
	その他	座席個別空調システムあり、足元スペース・椅子幅十分、
備 品	ピアノ	スタインウェイ・ヤマハ・カワイ
	その他	
建 設 費	103億円 (県補助金25億円、起債<地域総合整備事業債>72億円、一般財源6億円)	
ソフト		
運 営	経費	3億7,610万円(事業費9,810万円、管理費2億7,800万円) 指定管理料2億5,100万円、事業収入1億295万円、その他2,215万円)
	職員数	10名(放送局OBプロを有す)…指定管理者 財団法人都城市文化振興財団8名、市からの出向2名
	利用状況	利用状況 大ホールの稼働率低し。 1455席全席利用は年2～3回程度
	自主事業	あり
市 民 の 関 与	会員制度	友の会あり。しかし協賛企業等が大半でホール事業時の参加度は低い。
	サポーター	ホールサポートスタッフ実質30～50名 (チケット管理、場内整理等で自主事業開催時が主)
広 報	会報等	あり(MJハーモニー…財団が隔月発刊)

指定管理の状況	市からの委託料	2億5,100万円
	選定方法	管理業務仕様書を示し、公募コンペ
	期間	3年
	今後の選定方針	現在第3期募集方針検討中(市出向の2名は引き上げ予定、指定管理料の減額は必須か?)
研修後の意見		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地活性化や地方拠点都市地域、まちづくり拠点等々、多くの都市整備拠点の方向を掲げているが、他の公共・交通施設や商業機能との関連のない単独立地で、所期の目的には全く寄与していない。賑わいへの貢献や通常の利用度もさほど高くない。 ・ 駅前立地ではあるが、JR利用者を対象とする集客規模の物は宮崎市や鹿児島市に取られ、車利用(市民の大半)の催しには駐車場不足。立地条件の重要性を痛切に感じた。都城の場合は、本来の市街地(西都城)と離れている事もあり、まちの活性化への寄与は全くない。 ・ 駐車台数は大中ホール同時使用時には大幅に不足し、離れた駐車場を利用しているが不評との事。 <p>その他の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多機能総合文化ホールとは言え、大ホールは音楽用で規模(1400余席)が中途半端。中ホールは680余席で演劇用と、一応用途を分けている。しかしながら大ホールにオケピットはあるものの、演劇用をうたう中ホールには「せり」や「花道」用の想定もなく、特に演劇用と銘打った特色はない。ただ、舞台奥に大道具の臨時工作や寸法変更に対処する「工房」があることは好評との事。 ・ 別棟の創造練習棟はバンド練習等の使用料金が安いので、一定の利用はあるらしい。中央の多目的コンコースは構想倒れの感あり。 ・ ホール施設等のグレードは立派だが、高質と利用者増、文化意識の高揚が比例しておらず、やや「宝の持ち腐れ」の印象があった。今後の施設維持管理費の増大や自主事業誘致には大きな心配があるとの事。 		

視察研修報告書

部 会 名	施設規模・機能チーム	
日 時	平成22年2月5日(金)午後2時～5時	
研 修 先	はつかいち文化ホール・さくらびあ	
研 修 者	土谷委員・藤原委員・大西委員	
応 対 者	西尾哲司 主 幹:(財)廿日市市文化スポーツ振興事業団	
	重村幸雄 専門員: "	
市の概要		
人 口	115,000人	
周 辺 市 の 状 況	旧佐伯町・吉和村・大野町・宮島町を編入合併	
施 設 の 位 置	廿日市ICより車で5分程の位置	
そ の 他		
ハード		
施 設 規 模	大ホール	1,095席(2階)・間仕切後807席(両サイドにペア席)オーケストラピット有
	小ホール	296席・シューボックス型
	楽屋	全8室(内バス・トイレ付きは4室・和室1)
	会議室	会議室Ⅰ(37㎡27人)・練習室Ⅰ(28㎡15人)・練習室Ⅱ(26㎡18人) 練習室Ⅲ(13㎡8人)
	展示場	美術ギャラリー・図書館・市役所が併設
	和室	なし
	その他	リハーサル室あり 105㎡96名定員
設 備 内 容	エレベーター	有
	飲食	喫茶・食堂有(家賃20万/月の喫茶は黒字)
	その他	
備 品	ピアノ	3台
	その他	チェンバロ2台
建 設 費	140億(市庁舎を含む) 21.922㎡(駐車場248台)	
運営		
運 営	経費	業者委託 20,600千円/年 大ホール3名・小ホール2名
	職員数	市出向1名・財団職員3名・常勤嘱託4名・パート2～3名
	利用状況	過去6年平均利用率 全体80.27%・大ホール69.92%・小ホール70.44%・リハーサル室91.24% 練習室Ⅰ95.81%・練習室Ⅱ92.16%・練習室Ⅲ98.99%・会議室80.09%
	自主事業	自主企画事業15回・市民参加創造事業15回・マスメディア共同主催事業19回 音楽祭17回・他3回
市 民 の 関 与	会員制度	さくらびあ倶楽部(2,000円/年)
	サポーター	市民サポーター10名程
広 報	会報等	

指定管理の状況	市からの委託料	145,000千円/年
	選定方法	指名
	期間	5年
	今後の選定方針	
研修後の意見		
<p>1. 外観(デザイン)にこだわると、後々のメンテナンス対応が大変である。</p> <p>2. 人の動線等、設計段階で民間人・各専門業者を含め様々な方向から協議することが望ましい。</p> <p>3. 駐車場の確保は最低限条件である。併設施設を設ける場合には、最大限の考慮が必要である。</p> <p>4. 収入においては、市からの管理委託費が大きなウエイトを占めている為、重要な検討事項である。</p> <p>5. 舞台設備に関しては、様々なニーズに対応できるものが必要であり、特に音響設備への配慮はポイントである。また、舞台袖等、裏の部分の使いやすさにも専門家の意見が必要である。</p> <p>6. 楽屋・リハーサル室等、出演側への配慮された設備が重要である。</p> <p>7. 小ホールの併設は、必要設備である。また、それなりの設備を整えたものがあると、利用頻度がかなり上がったものとなる事が考えられる。</p> <p>8. 全ての施設において、他平均よりかなり高いレベルでの利用率である。 要因としては ①市役所・図書館・美術ギャラリーが併設しており、日常的に人の行き来が多い。 ②利用料金が安い。 ③市内の中心部にあり、交通の便も良い。 ④使用規制をあまり厳しく設けてない為、市民が利用しやすい。 ⑤事務員はじめ、業者委託者の対応が良い。 ⑥自主企画事業をはじめ、事業が定期的に多く開催されている。 ⑦会議室・練習室・リハーサル室の利用率がものすごく高い結果、大・小ホールの利用率の向上に何がしかの影響を及ぼすものと思われる。</p> <p>9. 大ホールの観客席スペースの高さ、奥行きを広くする必要はない。ペア席は良いアイデアかも・・・。</p>		

視察研修報告書

部 会 名	施設規模・機能チーム	
日 時	平成22年2月6日(土)午前10時～午後12時	
研 修 先	神辺文化会館	
研 修 者	土谷委員・藤原委員・大西委員	
応 対 者	財団法人福山市かなべ文化振興会	
	高橋茂館長・井上良三総務課長	
市の概要		
人 口	42,000人(神辺町)	
周 辺 市 の 状 況	福山市中心部から10km程離れたところ	
施 設 の 位 置	施設周辺は田園地域	
そ の 他		
ハード		
施 設 規 模	大ホール	814席
	小ホール	280席(内電動移動席180席)
	楽屋	全3室(和室17㎡・洋室28㎡・23㎡)
	会議室	全2室(96㎡)
	展示場	図書館が併設
	和室	10畳2間及び水屋(茶道施設有)
	その他	リハーサル室110㎡
設 備 内 容	エレベーター	有
	飲食	なし
	その他	
備 品	ピアノ	2台
	その他	ドラムセット
建 設 費	26.4億円16.956㎡(駐車場237台・他180台)	
ソフト		
運 営	経費	業者委託 18,000千円/年
	職員数	正社員3名・派遣1名・非常勤2名・臨時1名
	利用状況	大ホール37.6%・小ホール77.4%
	自主事業	自主事業5～7本・共催事業4～5本・その他教室事業
市 民 の 関 与	会員制度	友の会(235人)
	サポーター	ボランティアスタッフ(20人)
広 報	会報等	

指定管理の状況	市からの委託料	74,297千円/年(自主事業費として別途4,500千円)
	選定方法	指名
	期間	5年
	今後の選定方針	(広域法人化を目指す)
研修後の意見		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本陣を模範とした全瓦葺屋根で非常に風情があって落ち着いた外観である。 (※瓦屋根は防水面の効果が絶大であるとの事) 2. 交通の便が悪い。(JR駅より遠く、バスの便も少ない) 3. 来客の立場からすると、フロアー・観客席とも非常にゆったりした感じで、実際に落ち着く。 4. 観客席は、高さはそんなにないけれども、ゆったり感がある。 2階が多少あっても問題がないであろう。 5. 小ホールの利用率が高いのは、独自の教室事業を幾つか取り組んでいる為。 6. 市からの管理委託費が少なめなので、基金をとりくずしている。 7. 大ホール他、利用率が低い。 要因としては <ol style="list-style-type: none"> ①通常、人の交流が少ない場所であるうえ、交通の便が悪い。 ②10km離れた福山市には2つの大規模施設があり、少し大きな催しものは、そちらへ流れてしまう。 ③自主事業等の企画が少ない。スタッフ不足。 ④食事をする場所をはじめ、他の施設(図書館以外)が併設していない。 飲食施設がないのは大きな要因である。 ⑤合併後、近隣地域に400~500人の施設が4~5ヶ出来た。 8. 土地代は別として、施工費がかなり安い。何か建て方の秘策があるのではないか。 		

視察研修報告書

部 会 名	運営形態・ソフト部会	
日 時	平成22年2月8日(月)～9日(火)	
研 修 先	可児市文化創造センター”alaアール”	
研 修 者	三好委員・古川委員・守谷委員	
応 対 者	(財)可児市文化芸術振興財団・基本財産1億円	
	掘部顧客コミュニケーション室長&事務局長	
市の概要		
人 口	98,515人	
周 辺 市 の 状 況	多治見市・犬山市・名古屋&豊田市のベッドタウン	
施 設 の 位 置	最寄の駅から5分&10分程度 自家用車のアプローチ多し	
そ の 他	大王製紙(旧名古屋パルプ)あり。自動車関連企業多し。 名古屋駅まで1時間まで。体育館なし	
ハード		
施 設 規 模	大ホール	1019席
	小ホール	311席
	楽屋	充実
	会議室	別紙参照
	展示場	別紙参照
	和室	別紙参照
	その他	駐車場380台 館の広場(水と緑)広し 映像シアターなどロフトや練習室が充実
設 備 内 容	エレベーター	
	飲食	主劇場となりにレストランあり。 道路及び駐車場に近く館の利用者意外も多い
	その他	建築設計は(有)香山寿夫建築研究所 建築工事は西松・中島・新興共同企業体
備 品	ピアノ	
	その他	映像編集室・レセプションホール・ ワークショップルーム・作業室など充実
建 設 費	用地費約28億円・建設関連備品含む約100億円(合計128億円)	
運営		
運 営	経費	
	職員数	23人
	利用状況	稼働率87.6% 主・小劇場は68.5%
	自主事業	指定管理受託収入4億8000万円(内1億3600万円)

市民の関与	会員制度	アーラクルーズ62人(創造・支援・広報グループ)ボランティア
	サポーター	アーラフレンドシップ会員(早期情報提供)3359人
広報	会報等	財団&アーラクルーズともに発行
指定管理の状況	市からの委託料	487,500,000.-
	選定方法	入札(2回目の指定)他企業(団体の参加なし)
	期間	3年間
	今後の選定方針	
研修後の意見		
<p>市民文化ホール建設基本構想策定委員 可児市文化創造センター「aLa」視察報告書 平成22年2月10日</p> <p>1、可児市(かにし)文化創造センターの概要:別紙</p> <p>2、市民参加の変遷(あゆみ)HISTORY:別紙</p> <p>3、運営形態について</p> <p>3-1、指定管理者について。(市教育委員会が運営管理を財団法人可児市文化芸術振興財団・基金1億円で委託)なお、可児市から3名の幹部職員が出向している。職員23人</p> <p>3-2、市民の自主運営組織 NPO法人alaクルーズについて。 財団のパートナーとして共に可児市の文化振興に資するため組織され、自主運営されている。館内に割り広い部屋を事務所的に利用している。あくまでボランティア運営である。自主事業や、ニュースレター発行なども行っている実力派である。</p> <p>4、運営面での基本的考え方</p> <p>4-1、自主事業について 特筆1:自主事業が大変多く(事業予算1億3~4千万円と豊富な人材・専門家を職員にしている)大変充実している。可児市の支出金(委託契約料1年間)は約5億8千万円</p> <p>4-2、主劇場・小劇場・付帯設備の運営について 全て、指定管理を受けた財団が責任を持って行っている。</p> <p>5、運営の組織・収支・各施設の利利用実績:別紙</p> <p>特筆2:敷地33,554m²建築面積8,743m²延べ床面積18,410m²あり、館の芝生広場やエントランスに余裕の広さがあり、ゆったりとした利用がされていた。館内のいたるところに、休憩スペースがある。</p> <p>特筆3:館の運営について、「利用者に、前例が無い・お金が無い・禁止されておりダメであるという言葉を出る限り使わないこともポリシーとしている。」</p> <p>特筆4、館長を初代・2代目ともに著名な方をトレードしている。</p> <p>特筆5、市民とともに、基本構想→[基本設計→実施設計]→完成後の運営について議論していただく委員会をそれぞれ公募などして、人を入れ替えながらじっくり時間をかけてコンセンサスを得ながら、進めた。</p> <p>2月8日、9日と岐阜県可児市の可児市文化創造センターへ視察に伺いました。 建物のすばらしさ、景観、外観、また多面的に充実したものでした。</p> <p>施設紹介に順じて記載させていただくと</p> <p>1、主劇場(1019席、車椅子対応4席) オーケストラピット時876席</p> <p>2、小劇場(311席 車椅子対応2席)</p> <p>1、2共に親子室あり キッズルームを設けている(託児室としての使用は有料にて可) 保育者は使用者の手配、費用となる</p> <p>3、その他諸室</p> <p>A 音楽ロフト 合唱、オーケストラ練習 小規模発表会 セミコンサートピアノ、アップライトピアノ装備 搬入口設置のため直接搬出入可能</p>		

B 演劇ロフト

演劇、ダンス、小規模演劇等の公演も可能
小劇場の舞台と同じ広さを有するためリハーサルにも使える
搬入口設置のため直接搬出入可能

C 美術ロフト

絵画、彫刻等の美術工芸作品を制作するための部屋
ピクチャーレールが設置、展覧、展示に利用可
窓側の床上はコンクリートにしているため様々な作業に対応
搬入口設置のため直接搬出入可能

D 演劇練習室

演劇、ダンス練習室
遮音、床の仕上げ、鏡設置は演劇ロフトに準じている。劇場
に近いため、リハーサルも可

E ワークショップルーム

多目的洋室(2分割化可)

F ワークショップルーム

多目的和室(24畳)
茶道、華道に適している。

G レセプションホール

150人収容対応できる市民交流スペース
3分割可能

H ギャラリー

市民活動の発表、展示スペース

ミキシングルーム、スタジオ

映像編集室、スタジオ

音楽練習室3室

ギャラリー

木作業室

デジタルアート工房(PC)

上記の施設内では飲食、喫煙は原則禁止

共有スペース(占用時利用料有)

今回、私は、PTAの視点から報告させていただきます。この「aLa」がもたらしている、人々の「居場所」について

PTAの立場から青少年がこの建物が、「心地よい居場所」を提供している。市民全体のための文化施設である観点から、利用する人を絞らず、利用する人に応じてフレキシブルに対応しているが、提供するものは本物であるという市民への質の高いサービス提供をそこかしこに感じました。

劇場や諸室のすばらしさは、言うまでもありません。それ以上にその他の共有部の利用され方に学ぶところが多く、非常に暖かさの感じるものでした。まず、ホール内にある、ゆとりをもって配置された、イスとテーブルが目につきました。

施設内は飲食禁煙が原則となっている中で、この部分の果たす役割は、家庭の居間のような、また、友達の家を訪れたような、心落ち着く場所になっていました。周辺に置かれた催し物のお知らせや、ポスター、整然とした中に新刊図書が配置された小さな図書コーナーなど、訴えかけてくるようなサービスではなく、ニーズのある人の目には止まるように、そっと提供されているサービスが、世代や性別を超えてここに人が集うのだと感じさせました。

子ども達の目線で考えるならば、児童館や学童クラブが担っている家庭外の家庭作り、その役割も持つように感じました。

小学校3年以降は子ども達で文化的に集うことのできる、学校外で安心して家庭のような活動を支援してくれる場所。いま、求めてやまないものの一つです。

それが、高学年、中学高校生、そして青年、大人たちへと広く利用できているのは、提供されている、質の高さなのかと思いました。

「aLa」は、本物の設備を、相手の利用するモラルを問う以前に礼と信頼を持って提供してくれる。その姿勢に利用者は、礼を尽くし自身のモラルで利用する。規則を細かく決めていない中で、何の問題もなく気持ちのよい利用が続いていることを施設職員からお聞きしあらためて考えさせられました。

スポーツも芸術も、本物から得るものは計り知れません。本物を見抜く力とその本物を提供されていることへの礼と感謝の気持ちは、心に深く届きます。

この「aLa」を利用する子ども達を見て、年齢が低くても礼儀をもって利用している姿に、公共道德観は、口頭で教えることと、公共の何たるかを肌で感じさせ、自分で考える機会を多くもたすことの大切さを痛感しました。豊かな情操教育とは、本物に出会う機会と、もう一歩自分に近づけて、音楽、演劇、美術など触れる機会も持たせてあげるべきなのだと感じました。

子ども達が、自ら規律を守り、生き生きと取り組んでいる姿はとても印象深いものでした。

また、健全育成の活動からの視点では、音楽練習室の年間稼働率98%～99%である、バンド練習という音楽にエネルギーを注ぐ子ども達が、純粋に成長していく場を提供できているところに注目しました。

何かをやりたいと感じる多感なときに、子供用に作られた練習室ではなく、本物の機材を使い、本物の音響設備の中で、自分達が今できるすべてを出していくことがどれだけ情操教育に影響を与えるだろうと考えたとき、当市で同じ考えを持って取り組んでいる子ども達と、環境の違いは明らかです。

練習に向けるエネルギーを、練習場所がない故にあきらめるために使わなければならないとしたら、不憫です。どの子も多くの可能性を持ち、未来を努力で切り開いていく今を生きています。バンドや、ダンスなどスポーツと同じく昨日より今日と切磋琢磨し自分自身を磨いているに変わりはありません。また、多くのプロが集い本物を身近で見える機会にも恵まれているからこそ、尚一層の努力に励み、自身で考え行動する、また、方向も見通しやすいのではないのでしょうか。

当市は、流行や、文化、映画等で、商業施設や郊外大型スーパーに集うことで、時間を使っている子ども達も目立ちますが、このような施設があれば、文化を求める子ども達に一つ居場所を作れるのかもしれないと感じ、健全育成の面からも、多くの可能性を見出せると思いました。

家庭と同じく、家があって家庭が存在するのではなく、その場に集う人の心が家庭を生むように、その場に集う人が心地よいものを見据えれば、自ずと人は礼を正し、たとえ、集う場所が狭かろうとも、狭いなりに、席を詰めてでも集うのではなからうかと感じました。

今回の視察から、私達が目指すべきものは、利用者が求めているものは高く、文化芸術は追求していく先に、ここまでとゴールのないものであるが故に、あくまでもグレードは下げないこと、設備も補充可能な「のびしろ」のあるものでなければならない、また、ぬくもりのあるものになることを切望いたします。